

4 平成 13 年度 地区学連活動報告

4-1 平成 13 年度 北東学連活動報告

平成 13 年度北東学連幹事長 米本 路憲 (東北 3)

1 平成 13 年度北東学連幹事

幹事長 米本 路憲 (東北 3)
副幹事長 浜岡 将司 (岩大 3)
事業部長 佐野 智人 (北大 3)
事務局長 齋藤 城樹 (東北 2)
会計 横山 友彦 (東北 2)
広報部長 吉田 有希 (宮城学院女子 2)
会計監査 桧山 亮 (北大 3)

12.28 インカレセレクション 3 本目

「日光霧降」

2002.

3.8

北東学連インカレ前合宿 (モデルイベント)

第 3 回北東学連総会 (矢板)

3 活動内容

2 平成 13 年度行事

2001.

8.11 ~ .14

北東学連夏合宿

「雨降山物語」, 「裾野」,
「村山口登山道」

8.12

北海道・東北学生オリエンテーリング選手権大会兼北東学連インカレセレクション 1 本目兼北東学連インカレショートセレクション「裾野」
第 1 回北東学連総会

(村山ジャンボ)

8.26

第 24 オリエンテーリング北大大会
「望湖の丘 (夏)」

10.7

第 24 回東北大学オリエンテーリング大会
「むつかみかいどう」

11.4

筑波大大会 (インカレセレクション 2 本目)
「恋 こがし山」

12.27 ~ .28

北東学連冬合宿

「日光所野」, 「日光霧降」

12.27

第 2 回北東学連総会 (ホテル高照)

はじめに 偶々そうであったのか,それとも自分が招いたものなのか今年度の北東学連の 1 年は「激動の 1 年」と呼んでも過言ではない 1 年であった。この報告書を書いている時点(1 月)でも北東学連を取り巻く状況はなお流動的であるが,今年度の活動を振り返ってみたいと思う。

インカレセレクション 今年度は例年インカレセレクションに利用している千葉大会が開催されないこととなり,議論の末北東学連独自にセレクションを行うことになった。ここで,加盟員から 3 本目のセレクションを合宿にしたらどうかという提案がなされた。結局 3 本目のセレクションは日光で冬合宿を行うことになったのだが,加盟校への連絡が不十分でこの決定に至るまでかなり議論が混乱してしまった。これは完全に自分の不徳の為す所であり,迷惑を掛けた加盟員に深く謝罪したい。この混乱の反省から,北東学連の連絡・議論に関する対策が議論されることになった(これについては後述する)。

なお,セレクション自体は優れたコースが提供され大成功に終わったことを付け加えておく。

新歓活動対策 日本学連全体についてもそうであるが、北東学連も年々加盟員が減少している。この流れを止めて加盟員を増やすため、現在各加盟校に「新歓活動報告書」なるものの提出を求めている。集めた報告書を基に 3 月の総会時に新歓活動に関する話し合いを行う予定である。これらの対策が新歓活動に対して効果を挙げることを願ってやまない。

北東インカレ 北海道・東北学生オリエンテーリング選手権大会(通称北東インカレ)は今や北東学連の最重要行事の一つである。ところがその運営に関する取り決めは一切無く、そのため今年度の北東インカレはウイニングタイムが長くなり、大荒れのレースになってしまった。北東インカレはインカレショート・インカレセレクションを兼ねており、このような事態はエリートを選出に由々しき影響を与える。また、要項やプログラムの発行時期も決められておらず、北東学連のチャンピオンを決める大会にしては制度的な不備があるのではないかという認識を

持つにいたった。

この反省を踏まえ、現在北東学連ではインカレ競技規則・IOF 競技規則を参考にして北東インカレの競技規則を作成中である。

連絡・議論の手段の見直し 既に述べたが、今年度の独自セレクションの方法を決定するに当たり連絡が不十分で混乱を生じてしまった。北東学連は加盟校が互いに遠く離れた学連であるにもかかわらず、加盟校の意思確認の機会が年 2、3 回の総会のときくらいしかないのが現状である。そこで、今年度メーリングリストの立ち上げや主要大会時に加盟校の代表者が集まる等の措置を取る等の決定をした。

おわりに 今年度は実に様々なトラブルに見舞われたが、何とか無事に役目を果たせそうではっきりしている。日本学連を取り巻く状況は依然厳しいが、北東学連が日本学連の今後の発展に貢献できれば幸いである

4-2 平成 13 年度北信越学連活動報告

平成 13 年度北信越学連幹事長 田中 猛史(信州 3)

【原稿未提出】

4-3 平成 13 年度 関東学連活動報告

平成 13 年度関東学連幹事長 氏原 直人(東京工業 3)

1 平成 13 年度関東学連幹事

幹事長 氏原 直人 (東工 3 年)
副幹事長 伊是名 奈津子(実践 3 年)
会計 井手 千尋 (相女 3 年)

渉外部長 宇田川 雅令 (東大 3 年)
広報部長 後藤 崇 (東大 3 年)
記録部長 大保 和子 (筑波 2 年)
普及部長 樋口 佳和 (農大 2 年)
事務局長 小田 尚徹 (早大 2 年)

会計監査 内田 琢馬 (千葉 3 年)
 会計監査 佐藤 絢美 (中大 3 年)

2 平成 13 年度行事

2001.
 5.27 新勧ペア OL 大会 「二ツ塚峠」
 6.17 インカレショートセレクション
 「一宮砂丘」
 8.27 サマートレーニング 「草花丘陵」
 9.2 ソフトボール大会 (筑波大学)
 9.30 インカレプレセレクション兼新人
 戦
 「今井城址」
 12.2 関東インカレ個人戦兼インカレ本
 セレクション 「五町田」
 2002.
 2.10 関東インカレ団体戦 「日光所野」

3 活動内容

幹事 今年度 関東学連の幹事が 5 月になるまで
 全員そろわなかった。特に(自分が言うの
 も問題であろうが)幹事長が一番最後まで決まら
 なかったのは問題である。来年度以降はそのよう
 な事態が起こらないようにしなければいけない。

マナー問題 以前から関東学連行事でマナーの
 ことが取り出されていたが、ショ
 ートセレにて大きな問題になり、「誓約書」を使い
 加盟員に対して注意を喚起した。その効果かどう
 かかわからないが、その後は問題は起こらなかった。
 来年以降、このような問題が起こらないことを願
 うばかりである。

各種行事 新勧ペア OL 大会では今回悪天候も
 重ねてか参加者が去年の 30%しか
 集まらず、大きな赤字を出してしまった。

サマートレーニングでも参加者 20 名前後と振
 るわなかった。来年度以降、議論の対象にするべ
 き事項であろう。

ソフトボール大会においては今まで主管をお

願いしていた図書館情報大学が来年度中に筑波
 大学と合併するということから、来年度以降、ど
 のように運営していくか考えねばならない。

プレセレでは多摩 OL との共催という形になり、
 一般の参加者も参加する大きな大会の中で行わ
 れた。

トレインガイド また、今まで 2 年間発行されて
 いなかった『テラインガイド』
 の発行を今年度こそは発行しようと現在普及部
 長を中心に取り組んでいる。

ホームページ 今年から関東学連ホーム
 ・メーリングリスト ページを作り、またメーリ
 ングリストを連盟員内で作り、運営がスムーズに
 行くようにした。

総会 今年度学連総会は 8・2 月を除く毎月、計
 10 回行われた。総会は連盟員の発言のし
 にくいものになってしまった。

規約改正 今年度は規約の改正を行う。今回では
 主にセレクション・幹事の関係である。

ショートセレ・プレセレ

ショートセレのスタートリストに、『大学ごと
 のレーンの参加者を同数とする』と『事前に自分
 のコースがわからないようにし、人についていく
 ということもなくす』という 2 点が新たに導入と
 なった。また、選手権クラスの定員減少の結果に
 よるプレセレの通過者数のことは来年度にまわ
 すことになった。

シード制導入

今年度よりセレクション競技にシード制を導
 入した。これによって有力選手が固まってスター
 トせず、ばらけてスタートするようにした。

幹事関係

幹事の待遇改善のため、関東学連行事に幹事は
 無料で参加できるようにした。

今年度をまとめて 今年度も学連加盟員の減少
 は止められなかった。インカ
 レショートにおいては、WE で関東から欠員を出
 してしまうという最大学連では考えられない事
 態になってしまった。今はまず、加盟員の減少を
 食い止めることが先決であろう。

他にも学連自体の組織をまとめることが大切であろう。今年度は関東学連の組織を「順調に」運営することに対して動いたつもりである。来年

度以降の幹事陣にはもっとしっかりとした学連組織を作るようにがんばって欲しいとも思う。

4-4 平成 13 年度 東海学連活動報告

平成 13 年度東海学連幹事長 長谷川 靖 (静岡 3)

1 平成 13 年度東海学連幹事

幹事長	長谷川 靖	(静岡 3)
副幹事長	西脇 千可子	(梶山 1)
事務局長	内藤 愉孝	(静岡 2)
会計	加賀 千晶	(名古屋 2)
競技部長	太田 雄一郎	(名古屋 2)
広報部長	秋山 麗子	(静岡 2)

1.6	静岡大学大会 「奇跡」(静岡県富士宮市)
2.24	東海学連定例戦(梶橋戦) 「藤岡」(愛知県藤岡町)
3.14	第三回東海学連総会 (静大浜松キャンパス)

3 活動内容

2 平成 13 年度行事

2001.	新歓ペアOL 「浜松城公園」(静岡県浜松市)
6.24	インカレショートセレクション 「勢子辻 竹」(静岡県富士宮市)
8.11 ~ .12	東海学連夏合宿 「曲がり峠」(愛知県作出村)
8.11	第 1 回東海学連総会
11.4	インカレセレクション第 1 戦(筑波大学大会) 「恋こがし山」(栃木県宇都宮市)
12.16	インカレセレクション第 2 戦 「鹿深夢の森」(滋賀県甲賀町)
12.22 ~ .23	東海学連冬合宿 「岡崎中央公園」(愛知県岡崎市)
12.22	第二回東海学連総会
12.23	第 16 回 静名戦 「道根往還」(愛知県岡崎市)

2002.

加盟員減少 ここ数年加盟員の減少が問題になっているが、今年度の新入生を見ると、梶山女学園が 10 数名入り一気に人数が倍になったものの、静大・名大ともに数名しか入らずややさびしい結果となった。特に名大に関しては 3 年生以下の人数が 10 名を下回っており、来年度の新入生の数によっては加盟員が 10 名を下回る可能性が出てきた。東海学連の規約には「加盟校は加盟員が 10 名以上であることを要する」とあり、名大が準加盟校になってしまう可能性が出てきたため、規約を改正して上記の部分削除する事となった。名大に限らず静大も年々加盟員が減少傾向にあり、事態の改善が望まれる。また加盟員の減少にともない合宿等の運営能力も低下してきている。今年度は昨年引き続き静名戦を学連冬合宿の 2 日目に実施したが、運営者が院生だけでは足りずに OB の方にまでお願いせねばならなかった。来年以降は静名戦を単独で開催する方向ではあるが、実際に運営者が確保できるのかはわからない。

競技面 今年度のインカレクラシックの枠数は、男子が 3 枠で女子が 6 枠である。女子に関しては昨年度の卒業生の活躍により実力以上の枠数が得られたが、男子については 2 年連続して実績枠を得ることが出来ず、他学連と比べて力の衰えが感じられる。合宿等の内容を充実させてなんとか実力の底上げをしたいものであるが、上記のように合宿の運営すらままならない状況であり、厳しいというのが現実である。

セレクション運営 インカレショートセレクションは例年前年度のインカレクラシック完走者によって運営されていたが、近年のクラシック枠減少に伴って運営者の確保が難しくなってきた。この問題を解決すべく、夏の総会で学連のショートセレ規約を改正した。今までの、インカレクラシック完走者をセレクション免除者として運営してもらっていたのに加え、前年度インカレショートの A-final 出場者ならびに実績枠獲得者（予選 24 位以内）までをセレクション免除として運営してもらおう事にした。今年のクラシック出場者が全員完走したとしてショ

ートの結果とあわせて考えると、14 年度のセレクション免除者は男子が 3 人、女子が 5 人となった。女子の 5 人というのは多いが、来年以降クラシック枠が減少するであろうから今回だけ特別多いと考えて良いだろう。ただ、ショート予選 24 位以内という条件は多数の免除者を輩出してしまう可能性があり、今後も議論の必要があるのではないだろうか。

幹事の活動 今年度は自分も含めて幹事の仕事が出来ていない部分があった。一つの原因として総会がしっかりと出来ていなかったからではないかと考えられる。現在の加盟校 3 校という状態ではどうしても総会がなあなあになってしまっていた。総会は学連幹事同士が接する数少ない場であるから、まず総会をしっかりとして仕事を徹底させるべきであった。無責任ではあるが、来年以降はまず総会そのものから見直してほしいと思う。

最後に 1 年間東海学連の活動を支えてくれた幹事と渉外の皆さん、お世話になった関係者各位にこの場を借りて御礼申し上げます。

4-5 平成 13 年度関西学連活動報告

平成 13 年度関西学連幹事長 岸本 誠之（大阪 3）

1 平成 13 年度行事

2001.		9.24	（祝）	第五回幹事会	
		10.9	（火）	10 月総会	
		10.14	（日）	第 2 回定例戦	「一体山」
5.12	新歓ペアオリエンテーリング	10.23	（火）	10 月臨時総会	
	「嵐山」（運営：旧幹事）	11.18	（日）	第 3 回定例戦兼新人戦	
6.2	（土）新歓合宿				「葉隠甲賀 2」
6.10	（日）第 3 回幹事会，6 月総会	11.27	（火）	第六回幹事会	
6.17	（土）第 1 回定例戦	12.16	（日）	インカレセレクション	
7.1	（日）インカレショートセレクション				「鹿深夢の森」
	「ガリバーの森」			12 月総会	
7.14	（土）近畿 OL 連絡会	2002.			
7.21	（土）第四回幹事会，7 月総会	1.12	（土）～.13	（日）	

日本学連合宿兼関西学連合宿
「大名街道」

- 1.14 (祝) 近畿 OL 連絡会
- 1.20 (日) 第 7 回幹事会
- 2.2 (土) 2 月総会 (予定)
- 3.30 (土) 第 8 回幹事会
3 月総会

その他"Freedom"の発行をしております。

2 活動内容

他学連が新勤で苦戦しているという話を
新歓 聞かなくなり、関西学連の各大学は少なくとも
も相対的にはかなり好調だったのではないで
しょうか。新人が激減したという話も聞きませんし、
一方で今年 1 年で一気に部員が倍増したというよ
うな大学もあったようです。どの大学も失敗しな
かった、というのが今年の特徴です。ここ数年エ
ントリーできる大学が少なくて寂しかった関西
学連新人戦の団体戦も、今年は男女共に 5 チーム
ずつで争うことができました。全加盟校がエント
リーできたのは相当久しぶりの事だそうです。

現在日本学連で話し合われている問題は色々あ
りますが、そのほとんどが加盟員数が増えれば少
なからず解決できるものだと思います。ピラの作
成、みんなで楽しめる企画など、積極的な政策も
もちろん良いとは思いますが、逆に行事の縮小や
「何もしない」ことで各大学の負担、強制される
部分を減らし、クラブ運営に余裕を作ることも一
つの考え方だと思います。新入部員の欲しくない
クラブはないでしょうから、できた余裕は新勤の
方で発揮されるはずです。

インカレセレクション 12 月 16 日(日)、鹿深
夢の森で今年度インカ
レセレクションが行われました。昨年度の大坂
OLC に続き、今年も社会人団体(朱雀 OLK)に
運営をお願いしました。その結果、加盟校全 8
校がすべてエリート選手を輩出することとなり
ました。関西学連の今年の雰囲気非常に象
徴していたように思います。

セレクション方法を決定する話し合いは、例年
どおり各大学間の方針の違いから来る意見の食
い違いに我々幹事会の不手際が重なり相当長引
きましたが、最終的に 12 月 16 日のレース 1 本に
男女各 2 名ずつの推薦枠を設けることになりまし
た。

毎年、ショートも含めてセレクション方法を決
める際にはこういった比較的意見が真っ向から
対立する総会が発生します。そんな現状からか
「規約としてセレクション方法を明文化して、毎
年それにしたがって行ったら・・・」という意見
をよく耳にします。実際、そうなれば開催される
総会の数も半分ほどで済みそうな気がします。幹
事会の負担も激減することでしょう。ただ、少々
私的な意見も入りますが、こうして毎年ゼロに近
い状態から案を出してもらってそれをたたき台
にして話し合い多数決を採ることで、毎年よう
に変わる関西学連の多数派の意見が柔軟に反映
されていると思います。最後に落ち着く折衷案は、
一人でも多くの加盟員に納得してもらえるもの
になっているのではないのでしょうか。これからの
幹事には負担かもしれませんが、こういった話し
合いは続けていってほしいと思います。

定例戦 今年から、関西学連主催の定例戦は 4
回から 3 回になりました。12 月総会で
来年度も 3 回でいくことになりました。これは主
に加盟員の減少による運営力不足から来るもの
です。幸い来年度は、各大学とも新歓が好調で運
営人数の確保に困ることはなさそうなので、いっ
そのこと 4 回に戻そうかという動きもありました。
しかし軸になれる大学がなく、「一度減らしてし
まったものを再度増やすのは難しい」という、昨
年定例戦を 3 回に減らすことを決めた際にあった
危惧を 1 年目にして思い知らされてしまう格好と
なりました。

それでも、その年の状況に応じて定例戦の回数
は検討して行くべきだと思います。一概に 4 回
の定例戦を続けるべきだったとは思いませんし、こ
の先 3 回は死守していくというのもそこに大き
すぎる負担があればどうかと思います。定例戦は素

晴らしい伝統だとは感じています。しかし 1 年の半分ほどを、半ば毎年強制的に開催させられる定例戦運営に費やすのが必ずしも全ての大学にとって良いことかと言われると正直怪しいものです。余裕のある大学が 2 回行ったり、新歓期の第 1 回のみ有志で行ったり、どの大学も何らかの形で運営に参加するという定例戦の素晴らしい大原則さえ破られなければもう少し柔軟性を持たせてもいいのではないのでしょうか。

その他近況 最近、どの学年も大学間を越えた横のつながりが、特に同期のつながり

が強くなってきているように思います。新入部員増加の一番の要因ではないかなと思ったりもします。そんな中、1 回生どうしが仲良くなる早さにはかなり驚かされました。週末、オリエンテーリング大会の会場に足を運ぶとやたら 1 回生が目につくような気がしますし、彼らが上回生になる頃が楽しみです。インカレセレクションの結果からも分かる通り今年はどここの大学も例年になく元気があるように思います。これも新入生の力でしょうか。

4-6 平成 13 年度中九四学連活動報告

平成 13 年度中九四学連幹事長 山本 輝明（広島 3）

【原稿未提出】